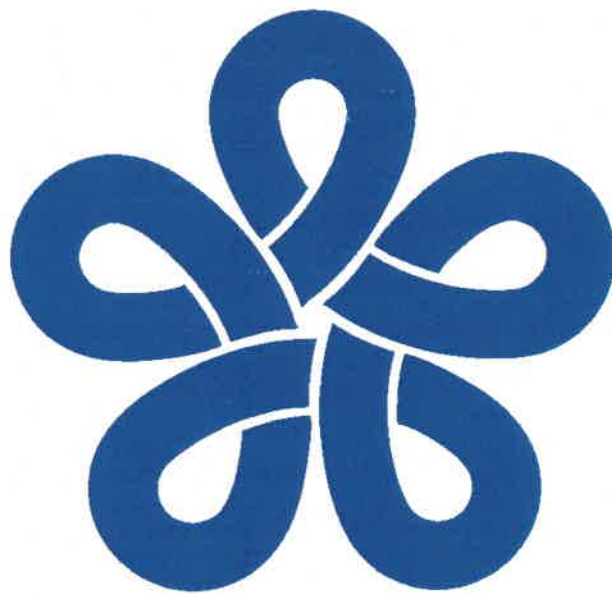


令和6年4月
南アフリカ等視察訪問団
報 告 書



令和6年4月11日～19日
福岡県議会

南アフリカ等視察調査報告書

議員派遣議決(令和6年2月定例会)に基づき派遣された県議会代表議員と九州の自立を考える会及び福岡県国際交流推進議員連盟の会員有志による県議会視察団が、4月11日(木)から4月19日(金)までの日程で、次のとおり、視察調査を実施した。

第1 視察調査の目的及び場所

議員派遣議決に記載された次の目的及び場所を基本として、議決後の事情により、ドバイ首長国(アラブ首長国連邦)における視察を追加した。

<目的>

「ワンヘルスの世界的拠点。福岡」の実現に向けて、ケニアのナイロビでは、世界の生活環境の改善というワンヘルスに深く関わる活動に取り組む国連機関であるハビタット本部との連携の可能性や具体策を調査し、本年4月に世界獣医師会の大会が、9月にワールド・ワンヘルス・コンGRESSが開催される南アフリカでは、ワンヘルスに関わる大規模国際会議の誘致・開催に関する取組を調査する。」

<場所>

「南アフリカ共和国、ケニア共和国」

なお、ドバイにおける視察調査の目的及び内容は、後述のとおり。

<視察先追加の理由>

今回の議員派遣による県議会視察団の日程については、WVAの開催日程とハビタット本部との意見交換日程の関係で、週末の土曜・日曜を挟むことが避けられなかったため、この期間を最大限に活用して福岡県の政策課題に関する調査を実施できる滞在・視察先を追加することとした。

そこで、まず、ケニア及び南アフリカの主要都市について検討したが、いずれも外務省により危険レベルが高いとされる地域であり、リスク管理上、滞在期間を必要最小限とする必要があったこと及び公的機関等が閉鎖される週末に視察可能で適切な箇所がなかったため除外した。

次に、南アフリカとの交通の便が良い周辺の国・地域の都市の中から適切な視察先を選定することとした。そこで、まず、次の理由から中近東地域を視察先とし、さらに、いずれも同地を代表する都市で、治安面とともにケニア及び南アフリカとの空路の利便性に優れたドーハ(カタール)とドバイ(アラブ首長国連邦)の2都市を候補地とした。

- ① 福岡県議会は、九州の自立を考える会とともに観光王国九州の実現を成長戦略の柱の一つとし、議員提案で観光振興条例を制定するなど、本県の観光振興政策の推進を求めている。円安効果もあり、最近のインバウンドは順調に回復しているが、

まだ中国、韓国、台湾等、アジア各国が中心であって、安定的・継続的なインバウンド需要確保のため、来訪国・地域の多様化が課題となっている。

また、円安に頼らない観光資源や地域の魅力の向上・開拓も必要である。

以上のことから、現在は、まだ福岡県への来訪客が少なく、富裕層も多い中近東のイスラム圏を新たなターゲットとして想定し、まず、ハラールはじめイスラム圏の宗教的戒律や生活習慣についての現地調査が必要と考えたこと。

② 近年、世界的な日本食人気の高まりも寄与し、中近東で日本の水産物の評価が高まっている。そこで、これを好機として水産製品やその冷蔵・輸送運搬技術等の新たな輸出先とするためには、現地でのマーケティングが必要であること。

次に、両候補地について、石油・天然ガスを経済基盤とするドーハと中近東の金融・貿易の中心であり、新産業の振興に取り組んでいるドバイの都市特性を比較し、ドバイが目指す都市像の方が「世界から選ばれる福岡」を目指す本県にとって問題点や課題を含め参考となる点が多いと考えられたことやホテルの空き室状況等を踏まえ、最終的にドバイを選定した。

日程：2025年4月11日（木）～4月19日（金）

出張者：香原 勝司 議長

松尾 統章 自民党県議団会長

岩元 一儀 民主県政県議団会長

梶島 徳博 新政会福岡県議団会長

秋田 章二 自民党県議団

その他参加議員 11名

随 行：議会事務局局長 ほか議会事務局職員4名

第2 ナイロビ(ケニア共和国)・国連ハビタット本部訪問

1 訪問の目的

上記議決記載の目的のとおり。

2 訪問先及び応対者

国連ハビタット(UN-habitat)

ラフ・タツツ グローバルソリューションディビジョン ディレクター(局長)

横田雅幸ハビタット南部アフリカ地域事務所代表その他

3 訪問結果

(1) ラフ・タツツ局長あいさつ

はじめに、国連ハビタット福岡本部に対する福岡県の支援に対するお礼を申し上げます。

また、ワンヘルスの取組、特にアジア獣医師会連合の取組における藏内博士の貢献とリーダーシップに感動しており、感謝を申し上げます。

これまで行政のリーダーは、健康の問題について、病気のことは勿論やっているが、衛生や環境の問題と深くかかわっていることを理解していませんでした。我々は、コロナの時、スラムからデータを集めて、スラムの人の密度と感染の相関性が高いことを確認しました。ですから、これからの行政のリーダーには、環境面、空間(人と人の距離、人と動物の距離)と住環境、そして清潔な水の確保に注力しなければならないことを認識してほしいと考えています。

その意味で、福岡県が、藏内博士のご尽力もあり、既に、インドシナ半島やベトナムで環境改善に協力しているのは、大変すばらしいし、注目している。

(2) 藏内勇夫公益社団法人日本獣医師会会長(福岡県議会議員) あいさつ

私は、30 年前にハビタットの地域事務所を福岡に誘致するため、当時の副知事とこちらの本部を訪問し、10 年前に当時の小川知事と訪問し、今回が3回目です。

実は、2022 年にこちらのモハメド・シャリフ事務局長(当時/現在事務局長欠員)が福岡に来られた際、県議会を訪問され、私と対談をしました。

このときに、シャリフ事務局長は、私がワンヘルス運動をやっているのご存じで、「ハビタットも発展途上国等の居住環境を改善し、人間の健康のための活動をしている。ワンヘルスも同じような目標、目的なので、何か一緒にやれないだろうか」と、そのようなオファーをいただき、「それは、是非、こちらもやりたいですね」とお答えをしました。また、昨年は、ハビタット福岡本部(誘致した地域事務所)が入居していますアクロス福岡に、(私が会長を務めています)アジア太平洋獣医師会連合のワンヘルスのオフィスを出すことが出来ました。このオフィスの開所式にはブ

ルーノ福岡本部長代理にもご出席を頂き、今年実施したワンヘルス国際フォーラムでも、ブルーノ本部長代理には、これまでの福岡本部の活動報告をしていただきました。

先ほどラフ・タッツ局長が話された人獣共通感染症、これは極めて大きな(ワンヘルスへの)脅威です。また、温暖化によって、マラリアが、また、日本に復活する可能性もあると、そういう危機感も持っていますので、そういう中で、ハビタット福岡と、アジア太平洋獣医師会連合とで、何らかの協定を結んで、お互いの目的達成に向けて進むことができないかと、そういう思いで、ここに何う前に、福岡本部とも打ち合わせをしてきました。一緒にシンポジウムを開催する、あるいは福岡県とコラボをして、ハビタットのことをもっと福岡県民に知っていただく、そういう中で、双方の目的が達成できればと思っています。

(3) 議長あいさつ

私ども福岡県議会は、人と動物の健康、環境保全は切り離せないものであり、一体的に守っていかなければならないというワンヘルスの理念と実践の取組を推進しています。また、ハビタットも、世界の貧困問題と生活環境の改善というワンヘルスと極めて関係が深い活動に取り組まれています。

そこで、本日は、ワンヘルスに関する意見交換を行うため訪問させていただきました。本日の意見交換が、ハビタットと福岡県議会の、ワンヘルスに関する新たな連携・協力関係の構築に向けた有意義な一歩となれば、ありがたく思います。

(4) 続く意見交換では、

○ ハビタット南部アフリカ地域事務所代表の横田氏から、アフリカ・ケニアで最も重要な問題として、議長からも話が合った健康と環境の問題、特に廃棄物管理の問題に取り組まなければならないとして、アフリカのまちをきれいにすることを目的としたプラットフォームを、JICA、日本政府、私ども国連ハビタット、UNEP に横浜市を加えて立ち上げたこと、そして、そこではハビタット福岡本部も重要な役割を担っていることが報告されました。

○ 最後に、ラフ・タッツ局長から、今年の 11 月にエジプトのカイロで、都市問題の専門家集団による国連でも 2 番目に大きな国際フォーラムが開催されるが、福岡県議会からも参加をしてほしいので、招待状を出させていただきたいとの話がありました。



第3 ドバイ(アラブ首長国連邦)視察調査

1 ドバイ視察の目的

前述のような経緯でドバイ首長国を視察先に加えたのであるが、「観光都市」と言われることも多いドバイの実像は、決して、そうしたステレオタイプの言葉では正しく伝えることができない、常に変化し、大胆に世界最先端の技術やシステムの導入に取り組む壮大な実験的都市である。したがって、むしろ、そこからは、街づくりや都市開発に関する失敗例や課題も含めた他に類例を見ない知見や情報が得られる可能性がある。そこで、中近東のイスラム圏という福岡県にとって未開拓の地域との国際交流に向けた情報収集を兼ねて視察調査先とした。

2 ドバイ首長国の概況

(1)基礎データ

- 面積 4,114 km²(埼玉県と同規模) cf. 福岡県 4,971 km²
基本的に首長国の全ての土地は首長が所有。
- 人口 363 万人(2023. 11)
2010 年～2020 年の 10 年間で約 1.8 倍に増加。2040 年には 580 万人を想定
→UAE 市民(現地人はエミラティスと呼ばれる。)は 8%。外国人は 92% (インド人、パキスタン人、バングラディシュ人、フィリッピン人)
男女比は、男性が 7 割。出稼ぎに来る外国人が多いため。
- UAE 国民には、教育無償、所得税・住民税無料の優遇措置がある。一方、外国人労働者は単身居住が条件で、家族の同居は認められていない。
- GDP 約 1,000 億米ドル(2015 年) cf. 福岡県 1,776 億米ドル(2017 年)
～為替の違いもあり、あくまでも目安～
- 年収 UAE 国民の平均年収は 2,000 万円。多くは UAE 人しか就けない公務員。
外国からの移住者(知的労働者)の平均年収は 750 万円だが、インド人等の出稼ぎ労働者に限れば 90 万円程度といわれている。

- (2) 宗教的戒律に厳格なドーハとは異なり、タックスハイブンや周辺諸国に比べた治安の良さ、教育水準の高さ、飲食店でのアルコール提供の許可、服装に関する緩やかな規定など、イスラム色を薄めた「寛容政策」で外国人を取り込んできた。

外国人労働者や観光客のために豚肉を出すレストランもあり、外国人女性には服装の自由が許されている。

(3) ドバイの環境対策

- ① ペットボトルウォーターを減らす取組

UAE 国民にとってペットボトルを持ち歩くのは当然の習慣だったが、プラスチックによる海洋生態系の危機を進行させないために、手持ちの容器に水を補給できる Water Station をドバイ全体で 46 か所設け、ペットボトルの購入量を減らそうとしている(Dubai Can 運動)。

- ② 2022 年 6 月からスーパーマーケットでのプラスチックバックが廃止され、紙袋(有料)を導入。
- ③ その他、ドバイだけではなく、UAE として、2050 年までに世界一炭素排出量の少ない国となることを目指し、環境配慮型建物と再生可能エネルギーへの投資を続けている。※新規着工の建物には Green Buildings の建築基準が適用される。

しかし、このように、脱炭素を目指しているドバイであるが、現状では、数多くの高層ビルの冷房のため、大量の化石燃料が消費されており、これらのビルの上水道用として、毎日、オリンピックプール数百杯分の海水を淡水化しているという。

また、海岸部に建設され、また、建設中の人工島は、サンゴ礁を埋め立てて造成されてきた。

3 ドバイでの視察テーマの選定

福岡県では、主にマレーシア人やインドネシア人を想定したムスリム(イスラム教徒)観光客の誘致を図るため、平成 27 年度に「ムスリムフレンドリー制度」を開始。昨年度も、ハラール、ベジタリアン、ヴィーガン等の食事面に対応できる環境整備に向けた「食の多様性セミナー」等の事業を実施しているものの、飲食店にとってコスト面等の課題も多いのが実情である。

また、1963 年創業の九州協同食肉(株)の食肉センター(太宰府市)が、対米・対 EU 輸出認定や HACCP に対応できる施設へと抜本的な見直しを行うため、令和 8 年開業を目指して建て替え計画を進めており、この新工場では、イスラム圏対応やハラール対策も検討されている。

これら本県の食に関わる事業者の取組においては、中近東のムスリムもターゲットとしたマーケティングやプロモーションを行うべきと考えており、特に、世界の富裕層が集まる都市ドバイで成功すれば、国内では福岡の魅力として定評がある福岡の「食」が広く世界に認知されるようになることが期待できる。

しかし、これらの取組は、国によって異なるムスリムの実情を踏まえる必要があることから、視察団としても、これを支援するため、ドバイのハラール対策や食に関する嗜好の調査を視察テーマのひとつとした。

次に、北九州市及び地元経済界は、MICE 政策として国際的な会議、大会等の誘致に力を入れており、世界の要人が宿泊してくれる世界レベルの高級ホテルの立地を望んでいるが、単体のホテルだけでは経営が厳しく、周辺の集客施設と一体となった賑わいの地域づくりが必要である。そこで、世界で最も先進的な取り組みをしているドバ

イの七つ星ホテルとその周辺地域の状況調査を視察テーマとした。

次に、福岡県では、福岡市の天神ビックバンに伴う大規模開発や都市交通の混雑解消と利便性の確保、周辺地域への影響の緩和、アイランドシティと接続する公共交通の整備、福岡空港と都市部周辺地域との連結や北九州空港と市中心部との連結問題に加えて、松山地区の埋立地の有効活用等の課題もあり、「世界に選ばれる福岡」の実現に向けた新たな都市開発と公共交通システムの充実が喫緊の課題となっている。

そこで、その参考とするため、あまりにも急激な人口増→都市の膨張によって慢性的な渋滞が発生した時期もあったが、多様かつ斬新な手法でその改善に取り組んでいるドバイの都市開発と都市交通システムの現状と展望も、視察テーマとして選定した。

<各視察箇所>

4月13日(土)

前述の九州協同食肉㈱の新食肉センターは、従来のと畜場の概念を超えた食品工場とし、地域の賑わいにも貢献できる施設とすることが志向されている。そこで、その参考となる施設として、一般住民はもとより、観光客も楽しめるドバイでも最大規模かつ人気の生鮮食品市場、ディラ地区のウォーター・フロント・マーケットを視察した。

市場は、私たちが宿泊したホテルから3kmほどの場所にあり、土曜日の早朝であったが、活気に満ちていた。

(1) ディラ・ウォーター・フロント・マーケット(Deira Waterfront Market)

私たちの視察は市場が始まる前に実施したが、早朝の視察にしたのは、週末でもあり、買い物客であふれだす前にじっくりと見て回りたいと考えたためである。また、ホテルと市場の間の埋立地(ウォーター・フロント地区)は、リーマンショックで開発計画が凍結されていたが、最近、再開されたとの情報があったので、松山地区埋め立て地等に関する視察テーマを踏まえた現状調査を併せて行うこととし、片道30分以上の距離を往復徒歩での視察とした。また、庶民が集う市場であることを考慮して、違和感を与えないよう留意しつつ視察を行った。

なお、市場内には「同業者の写真撮影を禁じる」との掲示があり、誤解を受けないように配慮する必要もあった。



この市場は、1958 年以来、ディラ魚市場(Deira Fish Market)の名称で新鮮な漁獲物や農産物を提供し、日本の築地のような役割を担ってきたが、施設の老朽化、悪臭問題、不衛生な環境状況になっていたこと等から、120,000 m²の新たな敷地に移転・新設され、伝統を受け継ぐとともに、肉類、乾物・スパイス等も加えた総合市場(公営)として 2017 年に開業した。施設内には、市場に加え、飲食店、小売店、ハイパーマーケットに多目的のホールがあり、地上 770 台、地下 470 台以上の無料駐車場も備えており、毎月 80 万人以上の買い物客、観光客その他の訪問者が訪れている。

営業時間

魚介類、肉類、果物・野菜等の市場	24 時間(金曜日 12:30pm~2:30pm は大掃除のため休業)
ルル・ハイパーマーケット	8:00am~12:00am(深夜)
乾物・調味料コーナー	6:00am~翌日 1:00am
小売店	平日 10:00am~10:00pm 週末 10:00am~11:00pm
レストラン	平日 10:00am~11:00pm 週末 10:00am~翌 1:00am

設備:タイピング(ビジネス)センターもあり、勿論、礼拝室も完備されている。



魚・魚介類市場

500 を超える業者が集まり、ハタや(マナ)カツオ、マグロ、シャケ、鯛、太刀魚、鰯にズワイガニなど、私たちにも馴染みのものを含め、ロブスター、キングフィッシュなど、地域内及び海外からの 350 種類を超える季節の生きた、又は新鮮な魚や魚介類(干物も)が山盛りに並べられ、展示販売されており、その圧倒的な物量に、一同、息をのんだ。

日本では干物としては見ない種類のドライフィッシュも多く、インド料理やエスニック料理に使用され、地元では不可欠の食材だという。

なお、この市場での買い物は、魚が新鮮な早朝か、ディスカウントされる夕方がお勧めだとのこと。値切り交渉が可能だそうだが、購入しても持ち帰れないので経験できなかった。

また、市場には、専用の解体及び洗浄エリアが併設されており、顧客は、魚や魚介類を洗浄し、注文通りに調理してもらうことができるようになっていた。

漁業は酋長国連邦の文化に深く根付いた伝統産業である。農業用の水がほとんどない砂漠の民として、連邦の祖先は、生き残るために漁業に依存してきた。ペルシャ湾は、魚は豊富だが、流れが強く、漁には高度な技術を必要とした。UAE の人口増加とともに、ハラールの障壁がない水産物の需要が高まっており、UAE 漁業への投資が増加し、技術も進んでいる。

こうした伝統から、UAE は、中東地域有数の水産物消費国で、FAO の調査によると、一人当たり年間水産物消費量(2020 年)は 26.5kg で、日本の 44.9kg には及ばないが、世界平均の 20.2kg を大きく上回っている。特に近年は、若者を中心に健康志向が広がり、水産物が注目されているとのことであり、福岡県を含む日本の水産物と加工・運搬技術にもビジネス・チャンスがあるのではないだろうか。



青果市場

150 軒以上の業者が出店。同市場は、地元産の農産物でもエキゾチックな種類の輸入農産物でも、最先端のものが全て手に入り、地元農家との強い絆だけではなく、国内外の配送ネットワークによって、農産物が完全に新鮮な状態で市場に届いていることを保証すると自賛・宣伝しているが、確かに、UAE の農場から直接調達されたものを含め、定番の商品、季節感のある商品が取り揃えられていた。

市場内の冷房・換気システムは、常に一定の基準で稼働しており、果物や野菜の新鮮さと栄養素を保ち、無駄な廃棄物が出るのを防いでいる。

有機農産物も豊富に提供され、UAE の有名ホテルやレストランのシェフの利用が多いとのこと。

肉・鶏肉市場

80 軒を超える専門の精肉店が集中するアラブ首長国連邦最大の肉・鶏肉部門である。市場の肉は全てハラールであり、いかにも新鮮なラム肉、牛肉、鶏肉、山羊肉、ラクダ肉等の様々な種類と部位(子牛、成牛はじめ、色々なサイズの足先やあらゆる種類の内臓等)の肉から選ぶことができる。肉の提供の仕方も、大きな塊のままのもの、下ごしらえしたもの、ソーセージ、ミンチ、パティ、ケバブ、キューブ、ストリップなど多様。各精肉店が、客のニーズに応じて調理してくれる。

肉は、地元、地方、国際的な農場から調達され、特別な洗浄と冷却ができる専用施設によって新鮮さが保たれ、販売業者は、食品の取扱いと安全性を確保するために厳格な衛生慣行に従っている。

市場内は、風通しが良く、空調施設による換気と温度管理が徹底されている上に、臭いを防ぐ特殊なイオン化バーも設置されている。高水準の清潔さを保つため、定期的に真水で洗い流されているという。実際、床面は汚れもなく、ごみ一つ落ちていない、清潔な状態が保たれていた。また、ハエ等の衛生害虫対策も徹底されており、視察中に施設内でハエを見ることはなかった。

中で作業している従業員は、全員清潔な作業着を身に付けていたが、特に加工コーナーの作業員は、より厳しい基準～おそらく HCCP を遵守したもの～に従っている様子であった。



また、吊り下げられた枝肉を肉塊に加工する作業を「マグロの解体ショー」さながらに披露する様は、来場者に一種のエンターテイメントとして受け入れられているようだった。



乾物部門

30 軒以上の小売店が並び、180 以上の国籍の住民が住むドバイの多様な需要に応えるため、あらゆる種類のドライフルーツやナッツ、スパイス、ハーブ類が売られている。

LULU ハイパーマーケット

多様な国籍の住民の（豚肉など、非ハラール品を含め）多様なニーズに応える家庭用品、輸入食品、冷凍品、ベーカリー製品等が並び、生鮮食品専用市場を補完している。

そのほか、市場の内外にフォトスポットを多数設置したり、2018 年から壁画・アートコンペティションを開催し、受賞作を場内に展示することで文化・芸術振興の一助とするアイデアは、施設の近代的な設備と相まって、マーケット特有の生活感とのギャップを生み出すことに成功しており、観光客が求める非日常を感じさせる手法として大変参考になった。

(2) モスク

福岡県内でもイスラム圏の人々の人口増加に伴い、福岡市東区にモスクがあるが、イスラム文化を理解するうえで、モスクの視察は欠かせない。イスラム圏の人々の日常生活についての説明を受けながら、モスクを外部から視察した。



モスクに入る際の服装に関する注意書き



モスクに隣接する公園には、礼拝のための絨毯が収納されたベンチが設置されていた。



(3) ウォーター・フロント(埋立)地域

① バージ・アル・アラブ(Burj Al Arab) ホテル

人工海浜に接した(280m の沖合)海上に人工島をつくり、建設。世界唯一の 7 つ星ホテルと称され、その高さで美しい姿によって、ドバイの象徴になっているバージ・アル・アラブ周辺地域を視察した。視察の目的は、このホテルの特徴的な景観を一種の借景として、周辺のビーチ地区に庶民も楽しめる集客施設、例えば、ショッピングモールや水がテーマのアミューズメントパーク、「ワイルド・ワディ・ウォーターパーク」等が集積し、面的な賑わいを生み出している状況を確認することにあった。各施設の中に入る時間はなかったが、ウォーターパークには高速ウォータースライダーや波乗り用プール、170m の長さのスライダーを家族で大きな浮き輪に乗って降りることができるファミリースライダー等が各種揃っており、実際、施設周辺は、観光客だけではなく、週末を楽しむ一般住民の家族連れで賑わっていた。この地区が子供から大人まで 1 日中楽しめる場所であることは、その表情を見れば一目瞭然であった。

福岡市でも、最近開業したリッツ・カールトンが周辺の街になじんだ隠れ家的スタイルで人気を集めているが、天神ビックバンも、これから本番を迎えるといっている。また、北九州市でも、今後、国際レベルのイベントが続き、さらに誘致を進めて国際都市を目指す計画であるが、その実現には、質と量を備えた世界水準の宿泊施設の整備が不可欠である。そうした取組を進めるうえで、地域の顔となり、核となる、ユニークな建築物の存在意義と、これと一体となった面的まちづくりの重要性を強く感じた次第である。

4月14日(日)

(1) スマート・パーム(Smart Palm)

ICT 社会への対応と観光立国のために国民や観光客に無料の WiFi 環境等と各種情報を提供し、電子機器の充電設備も備えているというヤシの木型「スマート・パーム」を視察した。この施設は、2020 年開催の万国博覧会に向けてドバイ内に 50 か所以上整備され、次の 6 つの特徴・機能を有している。

- i 利用者は、各スマート・パームの近くでは、内臓の WiFi ホットスポットを通じてインターネットに接続(無料)できる。
- ii 各スマート・パームには、360 度の赤外線 CCTV カメラとタッチスクリーンのアプリからアクセスできる緊急通報ボタンを装備
- iii 各スマート・パームを完全に電力自立で駆動させる発電効率 21%以上の葉っぱ型の太陽光発電パネルを搭載
- iv スマートシティの情報が、タッチスクリーンからアクセスできる多言語で使いやすいコミュニティ情報アプリ、専用 Web サイト及びモバイルアプリを通じて提供される。
- v デジタルスクリーンによって、政府広報や商業広告用のスペースが提供される。
- vi 各スマート・パームの隣にはシーティングエリアが用意されており、充電を待つ間、休憩し、リラックスしたり、無料 WiFi アクセスを通じて快適なインターネット

ト利用ができる。また、全てのバッテリーを通常の2.5倍の速さで充電できる。

なお、私たちは、バスの駐車が容易で、視察が通行の妨げにならないオープンビーチに設置されたものを視察した。確かに、スマート・パームを日除け代わりにしてその下に海水浴客が座り、リラックスしていたが、電源口等に潮風、砂等により腐食が見られ、砂漠地帯や海浜では維持管理に課題があることが見て取れた。



右奥の船の帆の形をした高層ホテルが、バージ・アル・アラブホテル。



(2) ドバイの都市交通システム(全体像)

<視察の趣旨>

ドバイは、1966年の石油発見を契機に、石油収入を担保として経済の多角化を志向

し、政府系デベロッパー等による都市開発が急速に進んだ。このため、1970年代、1980年代、1990年代と10年ごとに人口が倍増し、様々な都市問題が噴出したが、その一つが自動車依存による慢性的な渋滞と多量の石油消費であった。

その解決のため、公共都市交通システムのハード面及びソフト面における様々な改善・整備が着実に進んでいる。

例えば、天神ビックバンで都市改造が進む福岡市も、地下鉄がありながら、時間帯と場所によっては、酷い渋滞が発生しているし、ドバイと同様に国際金融都市を目指し、ビジネス・観光のインバウンドや国内での移転が増加すれば、今後、益々、渋滞が深刻化する可能性が高い。他にも、福岡県が抱える公共交通の課題は数多い。投下できる予算の規模は違うかもしれないが、課題先進地といえるドバイの状況と問題点を現地で実感することは、福岡県の交通問題を検討し、政策提言を行っていく上で有意義だと考え、世界最長区間の全自動運転システムで運行するドバイ・メトロはじめ、ドバイの都市交通システムを視察し、試乗や現地利用者(ガイド)のヒヤリングを行った。

観光資源になっている近未来的意匠の超高層ビル街は高架式の軌道を、そして、旧市街と河川部は地下を高速で走るメトロ、商業施設とリゾート地区を結ぶ比較的低速のモノレール、海岸部の地上を走る低コストのトラム、さらに都市部と郊外を結ぶバスと、場所、用途、コスト等に応じて様々な都市交通システムが整備され、新たなメトロ路線も計画されている。いずれも極めて多くの観光客や労働者に利用されており、様々なニーズに合わせて役割分担された(無駄の少ない)都市交通システムが出来上がりつつあることを確認した。

① ドバイ・メトロ

ドバイ国際空港とドバイ万博会場を結ぶレッドライン(33 駅)とオールドドバイやクリーク部を走るグリーンライン(18 駅)の2路線があり、総延長は約 89.3km。鉄道システムは三菱重工・三菱商事が、建設工事は大林組、鹿島とトルコのヤピ社の JV が受注して完成。開業時に導入された車両も日本の近畿車両製。完成時から完全無人運行されている。更に昨年、ドバイ国際空港とアル・マクトゥーム国際空港を結ぶ新路線「ブルーライン」(全長 30km)の計画が承認され、2029 年の運行開始が予定されている。

ブルジュ・ハリファ前の駅から未来博物館前の駅まで2区間の試乗を行ったが、料金が安いのが魅力で、インド系らしき住民や観光客でほぼ満員状態。ほとんど揺れもなく、快適だった。

ただ、車内は飲食とともに写真撮影が禁じられており、記録写真は撮れなかった。

メトロとはいふものの、地下部分が少ない理由については、観光客向けに高層ビル群を見ることができる地上高架を走るためだとの説明があった。もちろん、コストの問題

もあると思われる。

なお、砂漠地帯で地下にトンネルを掘るのは問題ないのかとの質問もあったが、意外に硬くなっており、支障がないとの答えだった。





安全のためホームはガラス戸で閉鎖



② モノレール、トラム

モノレールは、パームジュメイラ島の先端と本土側の付け根の GateWay 駅間を結ぶ軌道で、トラムは、レッドラインとほぼ並行してマリーナ地区を走る鉄道である。メトロとトラムは共通乗車券があるが、モノレールの料金は独立している。客層や利用目的が異なるからだろうか？



地下駅部分



③ バス

メトロやトラムは幹線しかないため、面的な交通手段を確保するためにはバスの役割は重要である。暑いドバイでは停留所も冷房完備されていた。



バス停の表示

右はバス停であるが、冷房用に密閉された構造。

しかし、週末の早朝だからか、治安のためか、施錠され、乗客は、上の写真の歩道橋の日陰で待っていた。



④ 高速道路

アラビア湾に沿って、UAE の2大都市、アブダビとドバイを結ぶ国家的基幹道路。

当初は4車線だったが、交通量の増大に伴い、次第に車線が増え、現在では片側6～8車線のところが多い。

平日の朝と夕刻の通勤時間帯は大渋滞が発生するようだが、それ以外は快適に流れている。単に車の量の問題だけではなく、運転マナーや分岐・合流の道路構造の問題もあるようだ。このため、ラウンドアバウトや立体交差の建設が各地で進んでいる。したがって、信号が非常に少なく運転は快適だという。

また、日本のような料金所はなく、Salic gate というゲート下を通過すると、フロントガラスに取り付けた IC チップで自動的に料金が引き落とされる仕組み。日本の ETC と違い取り付けは義務化されている。付けていなければ罰金対象。日本でも参考とすべきではないだろうか。



さらに、ドバイでは、自動運転技術を活用した自動運転タクシーが実用化され、自動運転 EV バスの試運転も始まっており、その他生活のスマート化が進んでいる。

道路網の整備も進んでおり、市街地からビーチまで 20 分、砂漠まで 20 分、山岳地帯まで 90 分で移動できる。

(3) 政府系デベロッパーによるドバイの都市開発

ドバイ首長国所有のドバイワールドグループ傘下の不動産開発会社「ナキール (Nakheel)」やドバイ王族が所有するドバイ最大手の不動産開発会社「エマール・プロパティ (Emaar Properties)」等が開発した近未来的な意匠の超高層ビル群や国家戦略に

に基づき世界の富裕層を集めるために開発された超高級住宅地等を視察した。

なお、外国人が不動産を購入できる地域は限定されている。



ドバイには、現在、「世界一」高い建物であるブルジュ・ハリファがある。

その足元にあるドバイ噴水(Dubai Fountain)の砂漠地帯とは信じられない豊富な水は、日本企業(HITACHI)の技術でブルジュ・ハリファ内の住居、店舗、オフィス、そして近郊の旧ドバイ・ダウンタウンエリアから集められた排水をリサイクル(特殊装置で浄化し、臭いも除去。さらに噴水の発射ノズルに塩分の結晶が付着しないよう処理)した水を使用。余った水は、街中の緑化のための灌漑水として活用されている。

また、ビルは、環境配慮型であり、膨大な数のソーラーパネルが取り付けられ、140,000トン/日の水を温めるのに使われている。

しかし、一方で、前述のとおり、海水の淡水化に膨大なエネルギーが使用されている。

GDPの規模だけ見れば福岡県とあまり変わらないドバイ首長国が、膨大な借金によって進めているこうした都市開発が、現状では雇用と富を生んでいることは、間違いがない。不動産業・不動産開発が金融、観光業とともにドバイの主要産業であることも事実である。しかし、これが持続的なものであるかどうか？歴史上、このような形の成長戦略で発展した都市は他に例がないだけに、また、リーマンショックの際は、道端に高級外車を乗り捨てたまま、一斉に外国企業が国外に逃げ出した過去があるだけに、目が離せない都市ではある。

(4) 未来博物館

この日は、最後に、未来博物館を視察した。

未来博物館は、ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥーム首長の指示で 2015 年に設立された未来財団によって 2022 年 2 月に創設された教育・研修施設である。美しい建物と展示内容で人気を呼んでおり、「未来への航海」をコンセプトに、バーチャルリアリティ、拡張現実、ビッグデータ解析、人工知能、ヒューマンマシンインタラクションなどを没入型インスタレーションや展示で紹介している。

視察当日も、子供連れや観光客であふれかえり、視察団は、ロビーからの視察しかできなかったが、極めて魅力のある施設であることは十分に確認できた。それほど高層ではないことからメンテナンスも特に問題がないと思われ、その美しい意匠は販売グッズにも活かされていた。



ウォーター・フロント地域にあるホテルから市街地を見ると、まだ未開発の土地が多いことと砂漠の上に出来た街であることがよくわかる。



街中の未開発の空き地に沿った歩道には、植栽の整備が進んでいた。砂漠地帯であり、灌水はどうしているのかとよく見ると、一定間隔で穴がけられた細いホースが3本ずつほど植栽の中に通されていた。

<まとめ>

まず、ウォーター・フロント・マーケットについては、ハラルを遵守するとともに、衛生基準についても高度に配慮されていることが確認でき、清潔さを大事にする日本との親和性が高いと思われた。実際、街中を走る自動車はほとんどが日本車で、日本への信頼の厚さも感じられた。

一方で、インド人等の外国人に対する配慮もされており、柔軟な国民性が確認できたので、同国人との交渉において参考になると思われる。

次に、スマート・パームのような先進的な整備に関しては、導入には積極的だが、きめ細やかなメンテナンスは、得意ではないのかもしれない。注意すべき点である。

都市開発については、ドバイと福岡市、北九州市では、投下資本の額が桁違いであることや自然条件の違いなど、単純に比較することはできないが、超高層ビル等の建設自体がエネルギーや金融に代わるドバイの新たな産業になっており、観光資源となって、観光産業も急速に伸びていることは参考になった。しかし、ものづくり等に関する成長産業は育っておらず、超高層ビル群も意匠の奇抜さからメンテナンスが困難と思われ、観光資源としての価値も将来減少していくと予想された。このため、現在の繁栄の継続性とまちづくりの方向性には疑問を感じる部分もあった。

※ なお、宗教上の理由から、女性を被写体として写真・動画を撮影することは拒否されたため、女性が一人でもいる方向にはカメラを向けることが出来ず、視察状況の写真撮影に困難があった。

<本報告に記載した事項は、事前調査及び現地調査に基づくが、現在も、fact check 中のものがあることをお断りします。>

第4 ケープタウン(南アフリカ共和国)視察調査

1 視察調査の目的

世界のワンヘルスの取組をリードしている世界獣医師会の大会は、ワンヘルスに関する最新の知見・情報、各国の取組状況を知る絶好の場である。

このようなWV Aの南アフリカ大会に蔵内議員の取り計らいで当議会議員も部外者ながら特別に参加できることになったことから、特別講演やセミナー等を聴講し、ワンヘルスに関する世界の動向を肌で感じ、新たな取組に生かすため、訪問団として参加した。

また、ワンヘルスに関する最大の国際会議であり、本県が誘致・開催を目指すワールド・ワンヘルス・ kongressが、本年9月に、同じく南アフリカで開催されることから、執行部の平山ワンヘルス推進課長とともに関係者とのコネクションを築き、併せて大規模国際会議開催のノウハウや問題点に関する知見を得ることや同大会を含め、ワンヘルス関連の国際会議等を福岡で開催することに対する協力を各国及び国際機関の有力関係者やトップレベルの研究者等に要請することも目的としていた。

2 各視察対象と視察内容

4月16日(火)

(1) WVAC(世界獣医師会大会)開会式 (ケープタウン国際コンベンションセンター)

次のような挨拶や講演が行われ、その後、各種表彰の授与式が行われた。

(主な式次第とあいさつ・講演者のプロフィールは、巻末の添付資料のとおり。)



2024WVA 大会の大会長 ポール・ファン・デル・メルヴェ博士

① 歓迎あいさつ等

今回の 2024WVA 大会の大会長であり、地元小動物獣医師会（SAVA）会長のポール・ファン・デル・メルヴェ博士及び世界獣医師会（WVA）会長のラファエル・ラガンス博士の開会と歓迎の言葉～いずれもワンヘルスの取組に触れたものであった～に続き、イヴァン・メイヤー西ケープ州農業大臣の歓迎あいさつ並びに講演が行われた。



ラファエル・ラガンス世界獣医師会（WVA）会長(本大会まで)

西ケープ州農業大臣の挨拶の概要は以下のとおり。



- ・西ケープ州は南アフリカの第一次産業の 55%、農産品輸出の約 50%を担っており、この輸出品のほとんどが家畜又は畜産物である。
- ・輸出に係る畜産物の検疫については、最近、革新的なオンライン電子輸出証明書局システム (ECOSS) を開始した。ECOSS は、24 時間オンラインで輸出円滑化サービスを顧客に提供し、輸出証明書の申請プロセスを数日から数分～数時間に短縮できるようになった。このプラットフォームは輸出プロセスを合理化し、国際規格への準拠を保証する。
- ・輸出の伸長は外貨収入増に貢献し、輸出の 5%の増加は、約 2 万 2 千人の雇用創出につながる。
- ・また、西ケープ州では 3 千万ランド（日本円にして約 2 億 5 千万円；1 ランド 8.3 円で計

算)を投じた州獣医研究所施設の改修が完了した。この施設は、南アフリカ国家認定システム(SANAS)と ISO17025 も取得しており最新の設備を備えている。

・こうした中、国際的には 100 万人当たり 200~400 人必要とされている獣医師が南アフリカでは 60~70 名と極端に不足しており、(動物の健康のみならず)食品の安全や人の健康を危険にさらす懸念があり、喫緊の課題となっている。

・獣医学教育を充実させ、獣医師数を十分に確保することが将来の農業セクターの繁栄をもたらす鍵と考えている。

・生きた動物が海上輸送されている状況について、容認できず、生きた動物の海上輸送禁止の検討の必要性和バイオセキュリティの重要性を強調したい。

・西ケープ州では、本年、獣医療サービスの充実とバイオセキュリティの強化を優先課題としており、WVAや南アフリカ獣医師会との連携が非常に重要になると考えている。

・また、南アフリカ政府としてはワンヘルスのコンセプトについても高い関心を有しており、明日の閣議にてWVACでの取り組みについて報告する予定としている。

・最後に、今大会には、ワンヘルスに取り組まれている日本の福岡県から大勢の議員の方が見えになっている。大変、嬉しく、感謝を申し上げる。

以上

② ウクライナからの報告

続いて、ウクライナのアンドレイ・クリエツォフ博士とナタリア・クリエツォフ教授により、災害や戦争による動物たちの被害と獣医師たちの必死の取組に関する報告・講演が行われた。

開会式では通訳ができなかったため、①のあいさつ等の内容は、帰国後、他の参加者と情報共有することになったが、ウクライナからの報告内容は、実に生々しく、悲惨な状況を伝える多くのスライド映像によって、現地で実際に何が起きているのか、戦争が如何に人と動物と環境に害悪を及ぼし、感染症蔓延の危険を孕むものか、通訳がなくとも各参加者にストレートに伝わるものであった。



災害は自然災害だけではなく人災も

(2) 西ケープ州観光貿易投資局(WESGRO)

午後は、ケープタウンが属する西ケープ州の観光、投資・企業誘致等を所管する政府の外郭団体である WESGRO で、水素エネルギー関連の取組を中心としたミーティングを行った。

<視察の目的>

本県は、グリーン水素戦略に基づき、オーストラリアと連携のMOUを締結しているが、南アフリカも、本県と同様、グリーン水素を中核とするエネルギー戦略を立て、実現に取り組んでいる。そこで、水素の調達、販売チャンネルの多様化による需給の安定化の観点から、先に視察したマレーシアに続き、南アフリカの水素戦略の現状を確認することが視察のねらいであった。

<視察の概要>

冒頭、今回の視察を仲介していただいた JETRO ヨハネスブルグ事務所の的場所長から、南アフリカの発電のエネルギーは、現在、8割が石炭であること、脱炭素やグリーンエネルギーの取組が世界で進む中で、南アフリカも国を挙げて水素をエネルギー源とする取組を進めており、西ケープ州の取組が最も進んでいることについての説明とともに、「福岡県も、ここの取組をご覧いただき、将来的に何らかの協力の可能性があるようであれば、地域間の交流ということにもなるかと思う。この視察が有意義なものとなれば幸いです。」との挨拶があった。

続いて、WESGRO 代表の Jaco. Delport 氏から WESGRO の業務と西ケープ州に関するプレゼンを受けた。同氏は、海外からの直接投資、主にグリーンエコノミー分野を担当しているとのこと。西ケープ州は、7つの優先的な課題に取り組んでいるが、その一つがグリーンエコノミーであり、特にグリーン水素分野では日本との共同事業、パートナーシップがカギを握っていると考えていると、日本への期待を示した。

続いて、西ケープ州のエネルギー担当特別アドバイザーの Aiwie. Lester 氏から、南アフリカ及び西ケープ州のエネルギー事情とグリーンエコノミー戦略に関する説明を受け、サルダーナ自由港の Venessa. Davidson 氏から、南アフリカの港で唯一特別経済区に指定されているサルダーナ自由港のグリーン水素のハブとしての優位性に関する説明を受けた後、最後に、香原議長が御礼の挨拶を述べ、ミーティングを終えた。



JETRO 上村氏



Jaco. Delport 氏

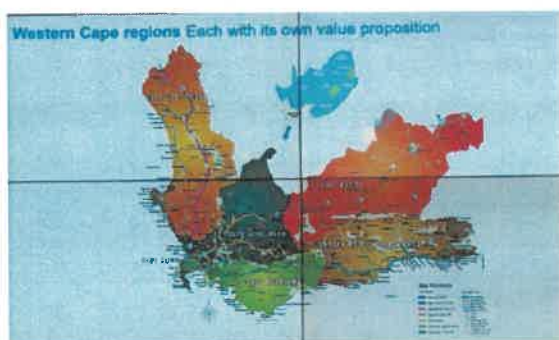
本ミーティングの詳細は、南アフリカの非常に強い風を利用した風力発電や広大な土地での太陽光発電等の再生可能エネルギーに関する潜在力は素晴らしいものがあると感じた。こうした再生可能エネルギーによる発電能力が現実のものとなれば、それを利用したグリーン水素の生産も可能になるだろう。また、既に JETRO の仲介で日本の企業との交流も始まっているという。しかし、現状は、1年のうち8割以上の日に計画停電を実施しなければならないほどの電力不足であり、再生可能エネルギー発電施設や送電施設等のインフラ整備への投資も、ほとんど未着手で、外国企業に期待している状況であることが質疑等を通じて判明した。とはいえ、資源大国である。時間は要するだろうが、将来的には、福岡県の水素戦略にとって、既に提携が始まったオーストラリアに加えて、マレーシアとともに水素戦略パートナーシップの候補地となる可能性はあり、これからの動向を注視する必要がある。

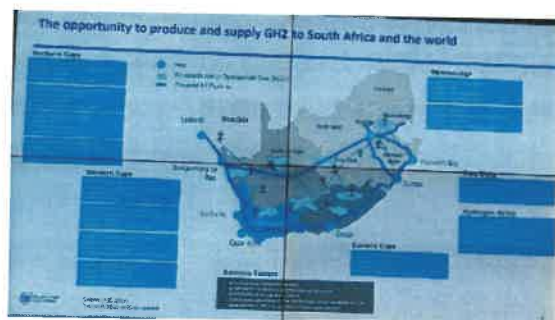


Aiwe Lester 氏

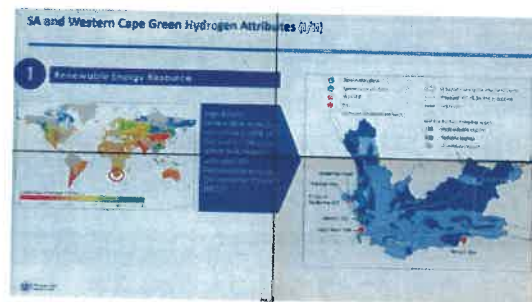


Venessa Davidson 氏

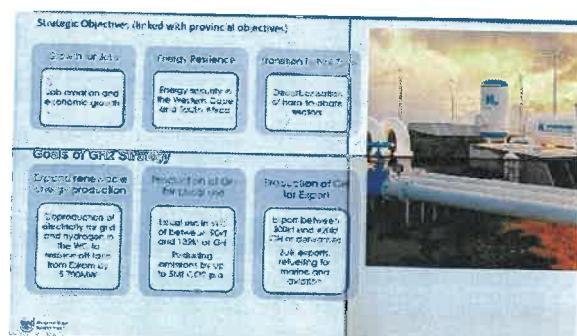




グリーン水素



再生可能エネルギー資源



WVA 大会ウェルカム・レセプション参加(ケープタウン国際コンベンションセンター) ＜参加の目的＞

前述のとおり、今回の WVA 大会に参加した主な目的の一つは、2 月議会での派遣議決に基づき「今回の WVA 他大会に加え、本年 9 月にワールド・ワンヘルス・ कांग्रेसが開催される南アフリカで、ワンヘルスに関わる大規模国際会議の誘致・開催に関する取組を調査すること」にあった。既に服部知事が 2028 年のワールド・ワンヘルス・ कांग्रेसを福岡県に誘致する取組を進めることを表明しており、WVA に関わる国際会議又は関連イベントを福岡県で開催することも想定されたからである。

実際、日本獣医師会の強力な後押しによって、2026 年の WVA 大会が(先行していた他国を逆転して)東京で開催されることが本大会で決定し、福岡県で関連会議・イベントを開催できる可能性が高くなっていた。そこで、香原議長を中心として、今大会に出席していた WVA の役員や有力者、各国獣医師会の関係者、各国のトップレベルの研究者等に対し、2028 年のワールド・ワンヘルス・ कांग्रेसの福岡県誘致への理解と協力、2026 年の WVA 東京大会と関連会議・イベントの福岡開催への協力、そして、福岡県が開催するワンヘルス国際フォーラム等での講演や出席その他の協力を要請するロビー活動を行った。

また、その際に議長は、9 月に当地で開催されるワールド・ワンヘルス・ कांग्रेसにおいて福岡県のブースを設置し、大会関係者に福岡県への 2028 年大会の誘致活動を展開することになっている平山ワンヘルス推進課長を伴い、各関係者に引き合わせを行い、コネクションづくりを支援したところである。

なお、参加議員は、それぞれに、大規模国際会議運営のノウハウや課題を調査するため、WVA 大会の受付の混雑状況、開会式の会場設営と段取り、飲み物や軽食の提供状況、WVA 大会の各会場やブースの様子、参加者の動向等を自由に見て回った。その内容は、意見交換会等を通じて共有し、議会における提言等に活かされることになるが、公表を前提とした本報告書に記載すると、南アフリカでの運営に対する批判と受け取られる恐れもあるため、差し控えることとしたい。



ラファエル・ラガンズ
前会長とジョン・デヨ
ン新会長にも要請



順番待ちの参加者で混雑する受付



開会式前に、受付前にて

この時の交流がきっかけで、令和8年3月、WOHC事務局（ベルギー）から事務局長のアイーダ・バクリ氏をはじめとする3名が、開催候補地の審査で福岡県を訪れ、服部知事及び藏内議長と面会する流れとなった。

面会では、FAVA大会2022の開催地及びアジアワンヘルス福岡宣言2022の締結、日本初のワンヘルス推進条例の制定など、本県議会のワンヘルス推進に関する取り組みを説明。また、2027年中の供用開始を目指すワンヘルスセンターについても触れ、開催地選定に向けPRを行った。



4月17日

ケープタウンの生態系保全の取組視察

<目的>

ケープタウンは、美しい景観と豊かな生態系～植物、ダチョウ等の陸上動物、海亀、鯨、ロブスター、アワビ等の海洋生物～に恵まれている(一部は過去形)。

このため、自然保護の長い歴史を有しているが、残念ながら、一部の優れた専門家の取組に限定され、住民の理解は乏しく、保護活動や政治の取組に繋がっていないのが現状。南アフリカの失業率は、以前は50～60%だったのが、コロナ以降、実に80%に及び、警官ですら文字が書けないという教育水準の低さも相まって、政府による様々な規制～水産物は基本的にライセンスがないと採れなくなったこと等～は、煩わしいとしか思われていないようだ(つまり守られていない。ケープタウンの海では、かつて、大きなロブスターやアワビが食べきれないほど採れていたが、乱獲で生息数が激減し、禁漁になったとのこと。しかし、今も密漁は後を絶たないようだ。)

美しい自然を誇る我が国の、そして福岡県の状況も、南アフリカと、実は、共通点があると思われるし、ワンヘルスの課題の一つである環境の保全、すなわち生態系の保全に関する一つのケーススタディとして直接現場と南アフリカの取組を確認し、その優れた点や課題を調査することにより、希少生物の保護に関する本県の条例の運用や見直しに向けた議論の参考とするため、南アフリカの自然保護の現状を視察することとした。

<視察個所・視察内容>

① ケープ植物保護地域群及び自然保護区

南アフリカや西ケープタウンの政府も、決して手をこまねているわけではない。

ケープ植物保護地域群では6000種の固有種が確認されており、この地域の13の保護区が世界遺産に登録されている。時間の余裕がないことと自然保護のため、車窓からの視察とした。

大きな問題は、この地域の約80%が私有地であるため、規制の力が弱いことである。



また、南アフリカ産ワインの人気により、ブドウ栽培面積が広がり、保護区を侵食していることも指摘されている。家畜等による水の過剰使用も土地の荒廃を招き、災害も多発している。ただ、観光が主要産業の一つでもあることから、道路にガードレールを設置しない等、景観には最大限の配慮がされている。観光客側のマナーもある程度確保されている印象であった。

(この地域は、風が強いため、高木は育ちにくく、フィンボスと呼ばれる低い灌木の植生が特徴。)



海についても、海洋保護区が設けられ、海洋生物の保護と漁業管理の両立が図られている(アワビやロブスターはライセンスがないと採れない。)が、基準が明確でなく、恣意的・不公平な運用がされるので、かえって混乱しているとガイドから説明があった。

海岸部に生息する生き物の保護区域もある。保護区域への道のりには遊歩道が設置され、そこから出ることは許されない。入り口には監視所を兼ねた南アフリカ国立公園管理案内所があり、記念グッズの販売所が併設されている。そこで使用されているみやげ用紙袋は、次のような環境保護を訴える言葉で埋め尽くされていた。



私たちの海を救え

（ゴミを）リデュース、リユース、リサイクルしよう。

貴方が変えよう。貴方の購入が危機に瀕しているペンギンを救うために続けられている努力を支援します。保護を通じたリーダーシップと魅力的な経験が、保護活動について学ぶ契機となります。

海洋プラスチック汚染を止めよう

第二の地球はありません。当店舗は、海のプラスチックを減らす南アフリカ国立公園の取組を支援します。当店舗では、可能な限り、プラスチックを減らします。

この取組に関しては、保護と観光・経済利用のバランスが、うまく取れているように感じた。

一方、この日の WVA 大会会場ではグローバル・ワンヘルス・サミットが開催され、一部の議員も出席。プレトリア大学のワンダ・マルコッター博士が、当地で9月に開催されるワールド・ワンヘルス・ कांग्रेसについてのプレゼンを行った。ワンダ博士は、同 कांग्रेसの責任者であることから、プレゼン後、平山ワンヘルス推進課長とともに



同氏と面談。福岡県が 2028 の同大会を誘致したい旨を伝え、支援を要請した。

このワールド・ワンヘルス・ कांग्रेसの本県開催誘致については、今回の視察によって、執行部と大会

関係者のコネクションづくりを支援し、大きな成果もあったところであるが、2028 年の開催実現に向けて、今後も、引き続き、しっかりと支援していきたい。

② 在ケープタウン領事事務所及び JICA、日本企業駐在員との意見交換会

平山ワンヘルス推進課長にも参加していただき、同課長と県議会から片山雅宏領事ほかの参加者に対し、本年9月にケープタウンで開催されるワールド・ワンヘルス・ कांग्रेस

グレスにおける県職員等のロビー活動への支援を要請した。

冒頭のあいさつで、片山領事は、「在ケープタウン領事館は、アフリカ大陸で初めて置かれた日本公館ですが、まだ、日本の地方都市との姉妹提携がない状態が続いている。地方議会の皆様の来訪は大いに歓迎いたします。」と語り、ケープタウンと日本の都市との協定の可能性を探りたいとの積極的な発言もあった。

参加された在南アフリカの邦人の方からは、「南アフリカはマラソンの人気が高く、市民ランナーも多い。ワールド・メジャー大会の一つ、「ケープタウンマラソン大会」も開催されている。福岡も、福岡国際マラソン等名だたる大会が開かれているので、マラソン交流などもできるのではないか」との提案があった。

また、やはり、南アフリカの治安状況に関する話題が多く上がったが、意見交換会後の団員の感想では、南アフリカの現状を視察し、国の発展は治安なしにはあり得ないということと、治安のためには、まず、教育が極めて大事だということを強く感じたという声が多かった。

（原口剣生九州の自立を考える会副会長から、片山領事に本県の特産品の八女茶を贈呈）



◇団長コメント

今回、ケニア共和国、アラブ首長国連邦、南アフリカ共和国と訪れ、それぞれの国において、今回の訪問目的を達成する事が出来ました。

ケニア共和国のナイロビの発展途上国の居住環境の改善に取り組んでいる国連ハビタット本部は、正に本県で取り組んでいるワンヘルスの理念に一致することから、ラフ・タッツ局長等の関係者と有意義な意見交換を行うことが出来ました。

また、特に、ラフ・タッツ局長からは、11月にエジプトのカイロで国連でも2番目に大きな国際フォーラム（世界都市フォーラム）への参加の招聘もありました。

ドバイはイスラム文化圏でも近代都市化が進んでおり、人道的な都市開発やデジタル技術を活用したICT社会の構築、地下鉄やモノレールのドバイの交通システム、また、国際ビジネス拠点としての取組は、今後の本県の施策に大いに参考になるものでした。

ケープタウンでは、世界のワンヘルスの取組をリードしている世界獣医師会大会(WVAC)の特別講演やセミナーを拝聴し、ワンヘルスに関する知見を広める事が出来、同時に本県が誘致を進めているワンヘルス・ワールド・コンGRESS2028の福岡県開催に向けて、各国や国際機関の関係者に対して積極的に誘致に向けて働きかけることが出来ました。

今回、各国で得た知見や関係機関とのネットワークを更に生かして、本県の更なる発展に向けて取り組んでまいりたいと思います。

◇参加者コメント

ケニア共和国のナイロビには発展途上国の居住環境の改善に取り組んでいる国連ハビタット本部が在り、本県には平成9年に設立されている国連ハビタット福岡本部が在ることから今回訪問しました。

ハビタットが進めている発展途上国の居住環境の改善は正にワンヘルスの理念に一致することから、ラフ・タッツ局長等の関係者と有意義な意見交換を行うことが出来ました。

特に、ラフ・タッツ局長からは、11月にエジプトのカイロで国連でも2番目に大きな国際フォーラム（世界都市フォーラム）への参加の招聘もありました。

※後日、アゼルバイジャン共和国で開催された、令和8年第13回世界都市フォーラムにも招聘され、「ワンヘルスアプローチによるレジリエンスなまちづくり」をテーマに平成29年に豪雨災害で被災した日田英彦山線沿線地域の復旧活動等について、①災害への強靱性、②生物多様性の向上、③人と動物が共生する社会づくりというワンヘルスアプローチの考え方に沿った復旧・復興の取組を世界に向けて発信することが出来ました。

アラブ首長国連邦のドバイに向かったのは、ハビタット本部終了後はナイロビ市内に宿泊をしたかったのですが、ナイロビは外務省が示している危険レベルエリアに該当す

る事もあったことから、夕方にはナイロビを離れ、ドバイのホテルには夜中の12時近くに到着し、翌朝には朝の6時過ぎにホテルを出発してバスも無いため、徒歩で40分程度かけて開店前のドバイ市内の公設市場を見学することができました。

ドバイ市でも大きな公設市場でイスラム圏での食文化に触れることができました。

近年、本県にもイスラム系の外国人が年々増えており、ここでの見学はハラール対策や中近東で人気のある和牛肉の輸出について参考になり、今後の本県の和牛肉の輸出業務に生かせるよう施策に取り組んで参ります。

また、ドバイは観光地としても有名ではありますが、もともと砂漠地帯を人工的に造り上げた都市でもあり、大胆な都市開発やデジタル技術を活用したICT社会の構築や地下鉄やモノレールのドバイの交通システム、また、国際ビジネス拠点としての取組も本県にとっては大いに参考になるものでした。

南アフリカ共和国のケープタウンでは、世界のワンヘルスの取組をリードしている世界獣医師会大会(WVAC)の特別講演やセミナーを拝聴し、ワンヘルスに関する知見を広める事が出来ました。

このアフリカ地域は感染症では一番恐れられているエボラ出血熱の発生地域でもあり、特に人獣共通感染症に取り組んでおり、感染症対策に大いに参考になりました。

また、2028年に開催されるワンヘルス・ワールド・コンgressの福岡県開催に向けて、各国や国際機関の関係者に対して積極的に誘致に向けて働きかけることができ、併せてワンヘルスのトップレベルの研究者とも本県での取り組みを含め、有意義な意見交換を行うことが出来ました。

福岡県議会南アフリカ等視察訪問団日程			
【令和6年4月11日(木)～19日(金) 6泊9日】			
月日	時刻	場所	備考
4 月 11 日 (木)	13:00	福岡空港集合(出発式)	国内線ターミナル1階 peachチェックインカウンター前 (1時間10分) (10時間50分) 【機内泊】
	発14:00	福岡空港 (MM154)	
	着15:10	関西国際空港	
	発18:30	関西国際空港 (QR803)	
	着23:20	ハマド空港(ドーハ)	
4 月 12 日 (金)	発1:35	ハマド空港(ドーハ) (QR1335)	(5時間20分) (5時間5分) 【ドバイ泊】
	着6:55	ジョモケニヤッタ空港(ナイロビ)	
	11:00	ハビタット本部	
	発16:35	ジョモケニヤッタ空港(ナイロビ) (EK720)	
	着22:40	ドバイ空港	
4 月 13 日 (土)		デイル・ウォーター・フロント・マーケット ウォーター・フロント地域等	【ドバイ泊】
4 月 14 日 (日)		スマート・パーム 都市交通システム等	【ドバイ泊】
4 月 15 日 (月)	発9:10 着16:50	ドバイ空港 (EK770) ケープタウン空港	(9時間40分) 【ケープタウン泊】
4 月 16 日 (火)	8:30	WVA 開会式	【ケープタウン泊】
	14:00	観光貿易投資局WESGRO	
	18:30	WVA ウェルカムレセプション	
4 月 17 日 (水)		ケープ植物区保護地域群	【ケープタウン泊】
	18:00	在ケープタウン領事事務所等との意見交換会	
4 月 18 日 (木)	発13:00	ケープタウン空港 (QR1370)	(9時間35分) 【機内泊】
	着23:35	ハマド空港(ドーハ)	
4 月 19 日 (金)	発01:30	ハマド空港(ドーハ) (QR802)	(9時間30分) (2時間31分)
	着17:00	関西国際空港 (大型バス)	
	発20:32	新大阪駅 (のぞみ193)	
	着23:03	博多駅	

